

◎活動の理解者、応援者を増やすための「見える化」「地域ぐるみ化」の支援により、地域の健康寿命の延伸につなげる

No.3	銚子円卓会議		
事務局	銚子市	実施エリア	銚子市

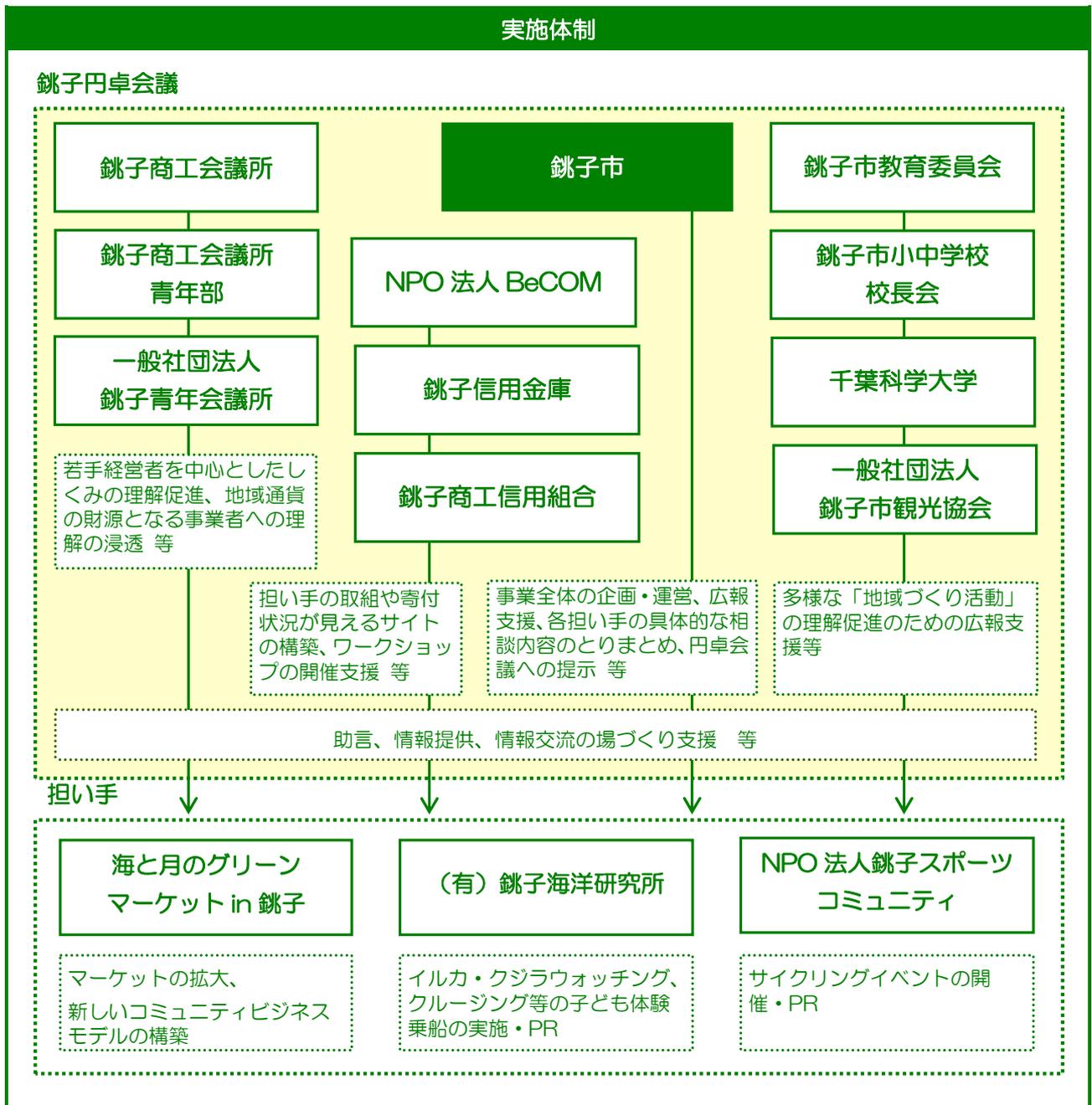
事業名
健康寿命の延伸につながる地域づくり活動を「見える化」「地域ぐるみ化」する中間支援活動

事業の概要
<p>体に良い地域食材やライフスタイルの提案までを行うマーケット、海を活かした感動体験により心の健康づくりに寄与するイルカウォッチング、恵まれた自然を満喫できるサイクリングイベント等、地域の課題である「健康寿命の延伸」につながる地域づくり活動に取り組む地元事業者やNPO 法人等に対して、行政や商工会議所、地元金融機関、さらには学校現場や若手経営者等も参画し構成する銚子円卓会議が、それぞれの多彩なネットワークと多様な経験による助言、情報提供を行うことに加え、電子地域通貨を活用した寄付の仕組みを駆使しながら新しいスタイルの広報活動による「見える化」、ワークショップ開催支援による「地域ぐるみ化」を行うことで、交流人口の増加や経済の活性化へつなげ、地域全体へ「健康寿命の延伸」の理念が浸透することを目指す。</p>

中間支援の概要
<p>健康寿命の延伸につながる活動を行う地元事業者やNPO 法人等に対し、各団体の要望に対する円卓会議による助言や情報提供、地元紙や地元 TV、インターネットを通じた活動や地域通貨「すきくるスター」を活用した寄付状況の見える化、ワークショップ開催による地域ぐるみ化（地域づくり活動に興味を持ち、参加する人、応援する人の発掘や育成）等の支援を行う。</p>

主な構成主体	中間支援の内容
①銚子市	事業全体の企画・運営、広報支援を担うとともに、各担い手の具体的な相談内容のまとめ、円卓会議への提示を行う。
②銚子市教育委員会 ③銚子市小中学校校長会 ④千葉科学大学	多様な「地域づくり活動」の理解促進のための広報支援、助言、情報提供、情報交流の場づくり支援等を教育的視点から行う
⑤銚子商工会議所	若手経営者を中心としたしくみの理解促進、地域通貨の財源となる事業者への理解の浸透に取り組む
⑥銚子信用金庫 ⑦銚子商工信用組合	担い手の取組や寄付状況が見えるサイト等広報支援、ワークショップへの協力支援、活動団体への個別的支援（相談対応、情報発信、情報提供等）を行う
⑧一般社団法人 銚子市観光協会	多様な「地域づくり活動」の理解促進のための広報支援、助言、情報提供、情報交流の場づくり支援等を観光的視点を組み入れ行う
⑨一般社団法人 銚子青年会議所 ⑩銚子商工会議所青年部	若手経営者を中心としたしくみの理解促進、地域通貨の財源となる事業者への理解の浸透に取り組む
⑪NPO 法人 BeCOM	地域通貨の管理、寄付促進支援、担い手の取組や寄付状況が見える広報の支援、ワークショップの開催支援を行う

	支援対象	地域づくり活動の内容
①海と月のグリーンマーケットin 銚子	オーガニックカフェ、料理教室を主宰する傍ら、市内近隣の農家等との交流を深め、食を通じて健康なライフスタイルを提案している	マーケットの拡大、新しいコミュニティビジネスモデルの構築
②(有) 銚子海洋研究所	年間を通じてイルカ・クジラウォッチング、クルージング事業を営む	イルカ・クジラウォッチング、クルージング等の子ども体験乗船の実施・PR
③NPO 法人銚子スポーツコミュニティ	スポーツ交流による地域経済振興に向けた仕組みづくりの他、スポーツ交流を支える人材育成、スポーツ交流、スポーツ大会の企画や開催などのスポーツに関係するさまざまな事業を行う	サイクリングイベントの開催・PR



取組内容

取組①専門性を活かした助言、情報提供

事業推進の過程で起こる様々な行き詰まりへの相談対応、助言・情報提供、ネットワーク力を活かした各種コーディネート・企画支援を実施した。

取組②地域通貨からの寄付状況や活動団体の取組の見える化

寄付（応援者）を募る仕組みを活用することに加え、地元紙・地元ケーブルテレビ・インターネットサイトでの広報、チラシの作成・配布等 PR 支援した。

取組③ワークショップ開催による地域ぐるみ化

多世代交流型のまちづくりワークショップを通して、市民と活動、活動者間のつながりを創出する地域ぐるみ化を支援した。

1 中間支援の活動プロセスにおける課題と対応

プロセス	支援対象	中間支援	成果・効果
取組の背景・動機	<ul style="list-style-type: none"> 銚子市は男女ともに平均寿命県内ワースト1となっており、職業、気候などに起因する伝統的な「食の嗜好」＝塩分の過剰摂取が要因の一つとされている。 先日公表された国勢調査の結果では、人口減少率が8.23%（前回6.25%）と前回の調査時から加速し、減少者は5,775人となっている。 銚子市は、豊富な魅力と潜在力を有しながらも、人口が減り、活力を失いつつある根本的原因をさぐるための試みや、多様化する課題を解決しようとする取り組みは決して少なくないが、いずれの過程においても、粘り強く解決まで導く耐性が弱い。耐性を支えるのは、事業に対する当事者意識の広がり、周辺理解、当事者間の信頼関係であり、講演会、勉強会などの外部講師の方々には、これまで幾度となく課題解決に向かう以前の「地域内連携の弱さ」を指摘されている。 		
体制構築のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 3つの担い手は、継続的に地域づくり活動に取り組むための資金が足りないこと、活動を幅広くPRすることが課題となっており、銚子円卓会議に対し地域通貨からの寄付の申請を行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度、千葉県「地域コミュニティ活性化支援事業」を活用し地域の課題解決に取り組むまちづくりプラットフォームとして銚子円卓会議を発足し、約2年間、構成主体間の信頼関係をゆっくりと育てながら、域内の消費喚起にも、市民活動の財源にもなる電子地域通貨「すきくるスター」をまちづくりに活用するための検討と実践を重ねている。 平成27年度、銚子円卓会議では、地域通貨を活用し中間支援活動を進める際、銚子市の課題である「健康寿命の延伸」をテーマとし、現在の行政による取り組みから得られる成果に留まらない地域力、市民力の向上につながることを目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄付の申請があった3つの担い手が行う地域づくり活動、各構成主体それぞれの専門性とネットワーク力を生かした企画提案、意見調整、相談対応や、担い手や活動内容の可視化、担い手が「健康寿命の延伸」というテーマから活動を見直すことにより、それぞれの活動に新しい広がりを生み出す契機となること、さらに活動間、市民がつながることを目指す場の創造に取り組むこととした。
支援対象の選定			
商品企画・開発	<ul style="list-style-type: none"> 月と海のグリーンマーケットでは、開催運営に係るスタッフ等が不足しているという課題があった。 銚子海洋研究所は、子どもたちの興味を引くプログラム内容や情報発信に課題があった。 NPO法人銚子スポーツコミュニティは、犬吠埼エンデューロが主催する初めての大規模イベントであった。 	<ul style="list-style-type: none"> マーケット前の駐車場確保のための連絡調整、当日の警備は千葉科学大学の学生警察支援サークルスターラビッツを紹介した他、マーケット当日、円卓会議事務局として寄付端末を設置してその仕組みをPRするなどの支援を実施した。 体験乗船の方法や範囲、情報発信の方法などを銚子市教育委員会、銚子市小中学校校長会等との連絡調整を銚子市役所地域協働課及びNPO法人BeCOMが対応し、子どもたちの興味を引くプログラム内容の検討（特に出航できない際の対策）、参加者とりまとめ、連絡調整、当日のサポートなど、ハンズオン支援を実施した。 開催場所や開催方法を含めて銚子市、（一社）銚子市観光協会が中心に相談に乗り、観光協会関連会議等で開催PR機会の提供などを行った。また活動主体の事業趣旨を理解し支え 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑にマーケットを開催できた。 天候により出航できない場合の代替プログラムも構築することができた。 平成28年5月22日に正式に開催が決定し、参加者の募集が始まった。 まちづくりワークショップ

		<p>る方法の一つであるラン&サイクルステーションへの設置協力を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • まちづくりワークショップを3回開催した。 	<p>に参加したことにより、活動や大会の広報・PRと同時に、多世代の市民との関わり、活動が客観的かつ新しい視点と出会うための場づくりができた。また、スポーツや観光の視点だけでなく健康との関わりという新たな視点を事業に取り入れるきっかけにもつながった。</p>
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> • 銚子海洋研究所は、子どもたちの興味を引くチラシの作成に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 銚子市教育委員会、銚子市小中学校校長会等との連絡調整を銚子市役所地域協働課及びNPO 法人 BeCOM が対応し、子どもたちの興味を引くチラシ作成支援を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市内全小学生に募集チラシを配布するとともに、一般紙2紙へ掲載することができ、90名を超える市内外からの反応があった。
開 販 拓 路	—	—	—
広 報 ・ プ ロ モ ー シ ョ ン	<ul style="list-style-type: none"> • 海と月のグリーンマーケットでは、イベントの周知・PRが課題であった。 • 3つの担い手において、活動に集中してしまうことにより、どのように広報したらよいか課題となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> • PR チラシへの銚子円卓会議による事業支援を明記するよう助言するとともに、配布先の紹介を行った。 • 各取り組みを動画にまとめ、ICT 寄付端末「こちょっぴー」、YouTube の専用チャンネルから発信したり、DVDによりワークショップの際にも紹介するなどの支援を実施した。 • 地元ケーブルテレビにおいて活動紹介番組を放送し、同じタイミングで地元日刊紙に活動の紹介記事を掲載するローカルクロスメディア戦略を試みた。 • いずれの媒体においても、内容を企画提案したほか、応援記事の執筆、番組出演者等への依頼、連絡調整などの支援を行った。 • 寄付で応援できる地域づくり活動を紹介する紙媒体のリーフレットを作成し、配布した。 • 円卓会議のウェブサイトを構築し、各担い手の活動状況や寄付現状が分かる内容とした。 	<ul style="list-style-type: none"> • 過去に開催された4回のマーケットではチラシ配布が叶わなかった地区や企業、学校、金融機関など広範囲に配布することができた。 • 円卓会議のホームページやリーフレットによる広報で活動がPRされ、マーケットへの来場者の増加につながった • 様々な媒体を活用したローカルクロスメディアを活用することができ、電子地域通貨という見えないポイントを可視化することができ、能動的な寄付につながることができた。
モ チ ベ ー シ ョ ン の 維 持 ・ 向 上	—	<ul style="list-style-type: none"> • 地元ケーブルテレビでの活動紹介を行う際に、インタビューを地元高校生としたり、市内医院の院長に健康アドバイスのコーナーを担当してもらうなど、地域住民の参加を促した。まちづくりワークショップへも、多くの地域住民の参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> • メディアへの露出により担い手のモチベーションを高めたり、地域住民の理解や共感を得ることにつながった。

2 中間支援のポイント（取組の中で見られた工夫・取組が上手く進んだポイント等）

①体制としての組織内連携の強化

銚子円卓会議では、参加者に報酬は発生せず、円卓会議そのものが収益をあげているわけではないため、方向性の共有、モチベーションの維持とそれぞれが担うべき役割認識とその共有が簡単ではない現状がある。しかし、本事業を通じて、担い手からの相談内容に応じ構成主体それぞれの専

門性を活かした助言や情報提供をスピーディに行い、ビジネスモデルの構築を多様な角度から支援することができた。また、相談を円卓会議で議論するための手続きのルール化、メーリングリストなどによる情報の共有化が進み、機能し始めているとともに、担い手の活動が活発化し、それらが報道されることにより、銚子円卓会議の事業支援であることも同時に紹介されることが中間支援活動の広報となり、組織内連携を高めることにもつながった。

②地域住民の能動的な関わりの促進

地域住民の目につくことが多いケーブルテレビや地元日刊紙などの広報媒体を活用したり、地元ケーブルテレビで放送した番組の中で市内医院の院長による健康アドバイスや高校生の取材コーナーを設けたりするなど、担い手の活動をより身近に感じてもらう細かな工夫を取り入れた。これにより、市民一人ひとりの行動変容を促し、活動への参加者数や寄付金額の増加など、地元住民の能動的な関わりを促進することができたと考えられる。

3 支援対象の成果

海と月のグリーンマーケット in 銚子が行うマーケット出店者数については、当初目標の30店を達成することができた。来場者数については、当初目標を上回る315名の来場があった。(有)銚子海洋研究所が行う子どもの体験乗船については、当初目標を大幅に上回る103名の参加があった。年間乗船者数については、当初目標の3,000名に対し2,998名となっており、概ね達成している。NPO法人銚子スポーツコミュニティについては、ラン&サイクルステーションの設置数が当初目標を達成し、大会ボランティア数も当初目標の70名を上回っている。地域通貨からの寄付についても、当初目標の寄付金額を達成している。

表 成果目標の達成状況

成果指標	事業開始当初	目標	達成状況
①マーケット出店者数	27店	30店	30店
来場者数	200名	300名	315名
②子どもの体験乗船数	0名	10名	103名
年間乗船者数	2,566名	3,000名	2,998名
③ラン&サイクルステーションの設置数	15箇所	25箇所	25箇所
大会ボランティア数	0名	70名	80名
④地域通貨からの寄付	0円	230,000円	252,539円



海と月のグリーンマーケット in 銚子の様子



子どもの体験乗船の様子



活動を紹介するリーフレット



まちづくりワークショップの様子

4 地域づくり活動支援体制としての成果と課題

◎地域課題解決に向けたワンストップの窓口機能を有する体制の構築

本事業の実践を通して、担い手の相談に対するワンストップ窓口の機能を有し、専門的知見を持つ多様な構成主体が、多角的な視点のもとで対応できるプラットフォームが必要であることをあらためて確認できたことが、成果として挙げられる。また、地域課題である健康課題や次世代を担う人材育成にも対応できる体制の構築が進み、地域づくり活動が、応援者を巻き込みながら継続できる方法の一助となるしくみが完成しつつある。

◎金融機関の参画や協働アドバイザーの尽力による体制の強化

銚子円卓会議には、金融機関として銚子信用金庫と銚子商工信用組合が参画していることから、体制に対する信頼度が増し、事業継続へ向けた専門性の高い視点とアドバイスがあることへの安心感の向上につながった。また、協働アドバイザーである関谷昇氏（千葉大学准教授 協働アドバイザー）の毎回の会議参加とアドバイス、ワークショップ等での講義により、各構成主体の知識やノウハウは確実に向上しており、金融機関の参画や協働アドバイザーの尽力により、体制としての組織力の強化につながっている。

5 地域づくり活動支援体制としての今後の展望

◎事業の継続的实施に向けた電子地域通貨「すきくるスター」の活用

通信料等の経常的経費に加え、電子地域通貨の流通インフラ整備にかかる事業者負担が課題となっていることから、本事業を継続的に実施するための財源確保策として電子地域通貨「すきくるスター」を活用したファンドレイジングの検討を考えている。また、地域通貨の流通促進によるしくみの推進を含む事業を地域再生計画に位置付けることで、企業版ふるさと納税を活用することも可能であり、企業、事業者がメリットを得ながら寄付文化の醸成にもつながることが期待できる。しかし、資金調達に取り組むための準備と学びが必要であると思われることから当面は勉強会（講演会）を開催しながら実験的な期間限定による取り組みの実施を予定している。

「すきくるスター」は、地域内消費喚起に寄与し、まちづくり活動の寄付財源にもなるなど、世代や立場を超えた協働のまちづくりの苗床となりうる特長を持っている。その活用については、「地域資源の好循環による持続可能な地域社会を実現するため、地域通貨を活用したまちづくりを推進する」ことが、銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略にも組み込まれており、活用に向けてより一層の企画の工夫と実践の積み重ねが重要と考えられる。

◎ 「2020 円卓ビジョン」(策定中)に基づく中間支援活動の実施

現在策定中の「2020 円卓ビジョン」は、2020 年(平成 32 年度)までを見据えた中間支援活動指針となる予定である。それに基づき、電子地域通貨「すきくるスター」の流通を促すことにより、地域コミュニティの情報拠点となる商店・事業者、施設等の協力関係を構築するとともに、地域通貨「すきくるスター」が地域づくり活動に寄付できる仕組みを利用し、地域づくり活動間、地域の商店・事業者間、さらには活動と事業者などを結ぶ視点で事業の推進に取り組み、情報拠点となる商店・事業者、施設、機会等の情報をまとめた ICT データベースを構築することを予定している。

また、まちづくりワークショップの開催を継続して支援するとともに、銚子に対する理解を深める学習プログラムに加え、ふるさと学習の推進やまちづくりを継続的に支える人材の育成を進めていくこととしている。